

国分寺市図書館運営協議会第3期第10回定例会

日時：平成24年10月11日（木） 午前9時30分から12時00分

場所：本多公民館 講座室

欠席：2人 傍聴：0人

事務局：資料確認。

会長：さっそく協議会に入る。最初に協議事項「IT技術の進展をふまえた国分寺市立図書館のサービスのあり方について」の諮問についての答申原案の検討をしたい。我々の任期は今日の会までで終わりなので、答申を決定し、教育委員会に提出したいと思う。内容は大方議論したので、修正部分のみ行う。答申案の会議の開催日に修正が2点ある。また14ページの2段落の中ごろからのセキュリティの問題のところで「また子どもたちの・・・あると考えます。」のところで以前の案ではフィルタリングソフトを入れるという表現だったが、そこは少し慎重にした方がいいということで表現を変えた。あとは内容の変更はない。答申文は15ページにもわたり長いので、国分寺では教育委員や議員に渡すために、概要をつけることになっている。私の方でまとめたが、3ページの概要について、これでいいか、内容と合っているか検討してほしい。概要の2ページの障害者サービスのIT化のところに訂正がある。まず、答申案の原案のところからご意見を伺いたい。提言についても改めて付け加えることがあれば感想も含めて提案してほしい。

委員：感想だが、電子書籍についてこのように書いてもらって非常によかった。今年になってあおられている感じがするが、もう少し冷静にちょっと待てよという感じなのでよかった。ICタグ、貸出返却のセルフ化に関しても、対サービスが形骸化しないような対応を考えよというのは重要で、こういう表現がきっちりあってよかった。

会長：ICT化はなかなか進まない。若い人はいいが高齢の人はなじめない。

委員：完成度の高い提言だと思う。小委員会を5回やっていただき概要もまとめてありわかりやすい。セキュリティの問題は検討するというより、ウィルスが入ってしまったら困るのでもっと強い書き方にした方がいいと思うが、これでもよいか。

会長：少し前にも、なりすましがあつた。図書館のコンピュータが踏み台にされることがないように。1期の時に答申文にそういう踏み台にされるという表現があつたが。概要の方で、文章も言葉も遠慮なく細かい部分の指摘を。

委員：読みやすくて特にない。5のICT化の課題、(2)の第2段落の「その他・・・進める“こと”が考えられます。」と「こと」を入れたほうがよい。「司書的素養」という言葉は「司書としての素養」の方がいいのではないか。

会長：意味としては司書としてのという意味ではなく、従来の印刷資料を中心としたものを司書的と言っている、伝統的な司書的という意味で言っている。

委員：総論の(3)のデジタルデバイドの問題、役割が期待されていると言っているが、

使命とか強い言葉にしていかないといけないのではないか。受け身になっていくのではなく積極的にやっていくということなのではないか。

会長：これは見方の問題で図書館が積極的に関わるというより社会が期待しているということ 강조했다かった。

委員：社会というのは頭になかったが、図書館としてやっていくことだと思ったので。

館長：4の電子書籍のところで「コンテンツもコミックが大半で貧しく」の「貧しく」の表現をとった方がよい。

会長：そのほか誤植などがあつたら言ってほしい。これは直接教育長に手渡しをする。今月中に半ばくらいにスケジュールを調整したい。委員の方ありがとうございました。では2番目は、検討会を8月から9月まで行っていた「第二次子ども読書活動推進計画」の案について検討したい。

事務局：「子ども読書活動推進計画第2期」説明。

会長：検討会に参加されている方は中身を知っているが、それ以外の方は本格的に見るのは初めてだと思うが、意見を出していただきたい。特にこれまでの子ども読書活動計画に、これまでの成果とそれを踏まえての今期の拡大、それを踏まえて新たに練り直したもの。大きく2つに分けながら第1次が平成20年から5年間、この間学校図書館には司書の配置、その成果もアンケートで見えている。

委員：「あなたは本を読むのが好きですか」というのに対し小学生も中学生も下がっている。中学生の場合明らかに減っている。これをどう分析するかは課題だと思う。「読書離れが進んでいきます」としか書いていない。どう分析しているのか。

事務局：内容について、第1次は書いていた。小学生のころは来ていたが中学生になるとクラブ活動が忙しいなど図書館に来ることや読書すること自体が難しい。塾が忙しい。高校になるともっと来られなくなる。読書の傾向がそれぞれの趣味に深く入っていった興味のないものには手を出さなくなってきたということもある。

委員：子ども読書推進計画を進めてもそれ以上のいろいろな要素があつて難しいということか。

事務局：学校図書館の司書も共通の課題で図書館に来てもらうような事業を、学校と公共図書館が連携を取り合つて、やっていかなければならない。

委員：字句のことだが、「第1章」が入っていない。「第2章」は入っている。

事務局：落としてしまっているようなので直す。

副会長：アンケートの回答を集めたばかりのところを見たので、コンパクトにまとめたものを見ることができて、子どもたちの現状がよくわかった。大変だったと思う。これをどう協議していくかということ、これからどうしていくかが大事だと思う。どこかに第2ステージに入ってきたという文章がある。学校に司書が入り子どもの利用が高まり、第2ステージというのはその通りだと思ったが、今度はもう少し読書が幅広く授業に使われるように、小学校のアンケートにもあつたが理科の授業に使われる、例えば、ひとの誕生、地学の鉱物など、資料を収集したとかこういう情報

を細かく集めて、使っていない先生が図書館で相談すれば図書館を使って授業ができたというのを地道に集めていくと、そういう資料を利用して調べ学習ができるといういい資料ができる。そういうものを今この時点で作ればいい。本来今忙しい時期だが1次と同じように、資料になっている。一つの節目としてご苦労様でしたと言いたい。第2次計画を立てるとき第1次と同じように策定委員会を設けて学校とか司書とか集めて国分寺の読書推進についてここで司書が出そろって学校の職員も司書教諭もその気になって計画を作れば良かったが、1回目が大変だったのでやれなかったと思うが、学校との関係を密にして、アンケートをしたわけなのでこれを活用してほしい。ひとつ小学校中学校の希望することの中に、言葉として出てこないが、司書の方に話を聞くと、学校に行っても図書館に行ってもその図書館を利用されることも知らずに来てあたふたして、学校と司書の関係がまだまだで、読書支援というか、司書と学校を結びつけてということをする人がいればいいと思う。支援センターのようなものがあるところもある。国分寺は5年で司書が交代する。もう一回試験を受ければいいが、今まで構築したものがここで元に戻ってしまう。司書の方はマニュアルを作っている。それはあくまで活字であって、有休をとって新しい人のところに応援に行きパソコンの使い方などいろいろ指導している。図書館か教育委員会に支援する人をおいていただき、全体をまとめて学校のつながりを見ていく人がいればいいのではないかと。時期が早すぎるのかという声もあったが、もう意見を言えるのが最後なので、支援員というような、そういう人がいるとスムーズにいくと思う。そしてその方は教員経験者がよい。司書、司書教諭の資格を持った人がよい。お金がかかると思うが。交代時のレベルアップにもつながる。

会長：他は。

委員：第2次の計画も、第1次を踏まえて、読書することに対して感想を書くということではなく読書することが楽しいんだという考え方がいいと思う。都の第2次の計画では高校ごとの読書率を発表するようになっていて、そういうことに走りがちになると困るので、基本を押さえていていいと思った。保育園、幼稚園の選定の方法のところは回答数が少ないのが残念。もう少しこの辺があるといいと思った。市立図書館のおすすめ本リストを継続させるとともに保育者へのフォローが良かった。15ページの小学校を対象とした学校図書館の地域開放、事情はあると思うが、子どもたちの安全を考えると、入りやすい環境を作らざるを得ないのかと思うが、安全性の確保や、本来の学校図書館の機能を損なうことはよくないのでそのあたりをきちんと押さえてやってほしい。公共図書館が近くにないと学校図書館を開放しようという方向に流れていくことはよくあることだが。

会長：学校開放は市長の公約、今の意見については図書館の方から何か。

委員：ほとんど説明で第1次に基づいているという話だったが継続しているものと新しく取り組んでいくものがあるが体系図の中では活字を太字で区別してもらえないか。

館長：第1次から第2次、策定委員会は第一期の運営協議会で何回も会合を持ってしっか

りしたものを作った。教育委員会でも考え、しっかりしたものがあれば5年で終わってしまうということはあるので10年くらいのスパンで考えて第1次に則った第2次ということになった。時代とともに新たに加える必要のあるもの、新たに加えるべきものを中心に表に落とした。より力を入れていくもの、実施中のもの、リストや改訂版を考えながら新規拡大事業を書かせていただいている。短期間であったがいろいろご意見をいただき、素案を作るまで行ったのに感謝している。

事務局：学年が上がるごとに読まれなくなるということについて2ページ目に勉強が忙しい、クラブ活動が忙しいという内容を書き加えた方がよいか。

会長：理由はそれだけではない。これは今始まった現象ではない。読書離れは前から言われている。生活自体が忙しくなったということもないわけではない。読書以外の興味の広がっているのが中高生、図書館には子どもたちの今読んでいる本があるのかどうか、本屋にはライトノベルやコミックに群がっている。そういうところに流れて行っている。相対的なものである。クラブをやめれば、塾をやめれば図書館に来るか。むしろ生活や意識が大きく変わってきている。大学生もどんどん読まなくなってきた。状況をきちんと分析する視点、読書離れと一言で言うべきではなく、課題提起が必要。

委員：生活環境の変化、30年前はゲームや携帯はなかった。今は勉強の時間すらゲームや携帯でとられる。クラブや受験だけではない、生活の中に離れていく要素がある。

事務局：文章を入れさせていただく方向で考える。

館長：今日いただいたご意見は運営協議会を経た計画案として教育委員会市の内部会議を経てパブリックコメントを経て策定していく。うまくいけば3月の教育委員会で策定、最終的に今年度中に公表する。

会長：それでは2.の報告に移る。9月議会について。

館長：図書館に対しての質問は4人から5点あった。1つは電子書籍図書館について。24時間365日運用でき、同時アクセス可能なので早々に電子図書館を開始してほしい。それと併せ市の重要な資料についても電子化を。今回の答申の中にそのままの答えが入っているが、今後取り組む。2番目はバス文庫について。香川県の坂出市で廃棄したリサイクル本を路線バスに載せ、読んだり自由に持ち帰れるようにするというのを始めた。国分寺市もぶんバスに積んだらどうかという意見。坂出市は90㎡、図書館は一つで、移動図書館が走っている。リサイクル図書を図書館に取りに行くのも大変という事情。国分寺市はリサイクルコーナーに出す2万冊があつという間にはけてしまうのでリサイクル棚に残るものがない。状況が国分寺市とは違うし、バスの安全運転が最優先である。

もう1点は、全国で多くの自治体が図書館のアウトソーシングは効果が出ている。国分寺市でも検討して行ってほしい。他市の例を見ながら検討すると答えた。広域利用については、国立、府中と連携している。小金井、小平、立川は連携していない。このような財政が厳しい折、広域を進めたらどうか。図書館だけでなく様々

な施設の広域連携を考えなければならない。図書館については小平がぜひとなっている。具体的に検討していかなければならない。平成 26 年度に小金井は学芸大の東に 1 館できる。国分寺からそれほど近くないがそれをめどに協議したいと言われている。立川はどこともやらない。市民からは要望はもらっていない。現実性のない話である。ここまで詳しく議会では話していないが。

図書館の資料費の削減についてどう考えているか。10 年前の図書費は 4500 万、今年度は 2000 万、それ以外に雑誌、新聞、CD が昨年の 3 分の 2 の状態になっている。どういう形で影響していくのか。創意工夫をしていきますという答えをしている。図書館の資料費が減らされるということは市民の知識を削っていくようなものだ、今後資料費の確保が必要だと言われている。これから予算編成の時期になり、図書館としても資料費を確保できるようにしていかなければならない。

次に文教委員会ではアウトソーシングについて報告したところ細かい質問が出た。いろいろな質問の中で慎重に進めたほうがいいという考えの委員もいる。いろいろな意見をいただいた。まだ検討の途中なので今日いただいた質問を踏まえて検討に取り組むと言っている。思いつきで言ったようだが、公民館と図書館両方のアウトソーシングをしたら安くないかとか。職員が減っていくのはいいのだろうか。IC タグを張ればもっと人が減らせるということも言われている。いろいろな段階の検討を踏まえて進めると報告をしている。

決算特別委員会は、子ども読書活動推進計画のところでは学校の地域開放についての程度進んだかと聞かれた。平成 16 年ぐらいのころに最初に話が出たが四小エリアの図書館から遠いので、四小の学校図書館を開放して地域の図書館としては使えないかという話が出ていたが難しいということだが、平成 22 学校図書館を全校的に地域開放していこうという話が出ていた。その検討結果については、学校図書館の機能を第 1 に考えながら市域開放をしたら本の貸出はできない子どもの居場所として本の提供をすることはできる 1 年半くらいそのままになっていたが第 4 次長期総合計画の後期の計画の中で平成 28 年までに 2 校実施するとなっていて、最初の 10 校から 2 校に何で変わったのか。これについては継続して開放していくためには様々な課題があるし図書館から遠い所の 2 校になったという説明をした。委員にも学校開放に関心のある方がいる。こちらは図書館だけで進められる事業ではないので学校指導課と連携していく。もう 1 点決算委員会で、IC タグは年次計画に沿って進んでいるのか。予算がなくやっていないが、毎回言われているし進めていくと答えている。議会関係は以上である。

会長：質問はあるか。

会長：小平と小金井は近々現実的な課題になりうるか。

館長：小平は市からも市民からも要望が出ている。反対に国分寺市がルネ小平やサッカー場が整備されているので利用できないかと。図書館独自の動きはしないようにということで進めてきて政策サイドで動き出し、併せて図書館が動く。早ければ来年の

可能性ある。小金井市は図書館間の話で、以前から小金井市からは言われているが新しい図書館ができてから動きが出てくるのでは。

会長：図書費は10年前から半減している。ある自治体の図書館で雑誌を停止しましたという表示が1誌ごとに貼ってある。ほとんどそれで埋まっている。雑誌は一旦切ると過去のを継続的に見ることができなくなる。これは大きな痛手を被る。

委員：それは近くの図書館か。

会長：遠いところである。

館長：図書費の2000万と子ども読書の図書費とで293万で114万円の減、CDは50万くらい確保していたのから9万にした。図書費全体で25%の減になっている。複本の数は人気のある本は4冊×5館で20冊買っていたのが、多くて10冊に抑えている。利用者懇談会でリクエストの本が回ってこないという意見が出た。買っていないのではとされている。旅行ガイドも料理の本も買い替えのスペンを3年に1回とか長くして減らしている。雑誌については市内複数冊持っていたものを減らした。その館で最新号を見たいという意見が多くある。また本が新刊コーナーに並んでいないという意見はもらう。カウンターやご意見箱でこの雑誌が読めなくなったのご意見をいただいたものは対応していかなければならないが、来年度の資料費の確保になるが、買っていくのは難しい。CDの購入は難しい。

委員：雑誌についてスポンサー制度を取り入れているところがある。プラスチックカバーに会社の宣伝を入れている。費用が削減されるのなら今後検討してはどうか。多摩地域の図書館でもよその市でアンケート調査をしているところがある。

館長：市民の方が最新号を買って読んでからくれるということで維持しているものもある。年度の途中では難しいので新年度の工夫である。

委員：雑誌の購入については何をはずして何を残すか相当考えてほしい。本多図書館で総合雑誌がなくなった。今まであった「世界」と「中央公論」がはずされて「正論」だけが残っている。「正論」しか読めないという図書館はどうか見識が問われる。どいうものが大事か問われるところだ。よろしくお願ひしたい。復活もありうるということなので。

会長：「正論」があるならそうでない主張のものが並んでいることは必要だ。全館でとるのではなく少なくとも1館は残すというのなら。

館長：本多は中心館になるのでこれだけはとっておいてほしいというものは一館のものが多くて、何を取り、何をやめるかももう一度検討したい。

会長：ではアウトソーシング実施計画の方向について。

館長：図書館もアウトソーシングする一つとして挙げられている。昨年12月に図書館は直営で行っていくということで推進本部に実施方針を出しているが2月にさらに踏みこんで検討するように言われ、多様なケースを考えろと言われ、正職員の担う業務について理由を明らかにしろと言われた。図書館で検討を進め、8月にまとめたものが、皆さんに配布したものである。案とついているがこれが方針案になる。教育

委員会で決定し、行革推進本部に出した。推進本部はまだ2回あったただけだが図書館の部分にたどり着いていないので、説明をまだしていない。近々に説明し意見をいただく予定で進む。図書館として教育委員会にまとめたものを出したという段階である。以下内容を順に説明。

会長：基本的に直営。公務員の正職よりコストがかかる。一部委託や指定管理だと上がるので直営が効率的という結論。大事なことは図書館の見解というのではなく教育委員会の見解としてまとめられた。つつかれるとしたらどういうことか。文教委員会から質問が出たのは特にどういうところか。

館長：公民館と一緒にというのは極端だが、アウトソーシングに新たなサービスが加わるという思い、開館時間が長くなるとか新たにサービスが付加される。たとえば電子図書館とか付随するものを考えていることが多い。直営のままだと変わりばえしない。新たなサービスのためにはアウトソーシングがいいことなのだという発想を、見積もり館単位で出てくるか、開館時間とかサービス内容とか利用実態をみて出してくる。1人いくらかは出していないのかという質問があったが。業者がそこまでは出していない。本部は図書館がアウトソーシングをして不都合がない施設であると考え方を強く持っている。正職員でなくても差し障りはない。そういうところもあって問題がないなら構わないのではないかという考え方である。コストが高くてアウトソーシングするのかというところが大きなところである。

会長：公共図書館はある業者の図書館を見るとすぐにわかる。全国的に画一的でどこでも同じ。例えば本を使って調べるコンクールをどこでもやっている。そういう意味では地域の図書館のイメージがずれている。ある業者は同じようなコーナーに同じような本が並んでいる。

委員：3ページの5でその通りだが今話題の武雄市は、議員も注目する図書館のサービス。市にとって根幹だという認識、市の幹部自身がどうなのかが不安があったりする。そういう当たり前の認識を持ってもらうということは難しいが、行政の思想を変えるのはたいへんなことだが、避けて通れない。誰がやるんだということはある。決算委員会で委員がアウトソーシング。議員に対する説得も何かの機会にしておく必要がある。教育委員会が方針をきちんと確認したということは良かったと思う。基幹業務を含めた理解をそれぞれの幹部にしていくということがあるといい。

会長：他は。

副会長：3ページの正職員の行う必要のある事業ということで自分は文庫をしたりして子どもに接しているので、いろいろ図書館に依頼して本を借りたりして、いろいろ助けてもらっているが、こういうことが委託になったらできなくなるのかなとすごく心配している。市民の気持ちや図書館に直に伝わるシステムをずっと維持してほしい。契約したことしかやらないということは、次々に発生する市民のいろいろな要求に対し契約外のことが起こってくると思うが、対応した時には時期がたってしまうことになる。

会長：アウトソーシングについては、第1期の運営協議会でも議論して意見書を出したりしている。答申の中にも図書館はアウトソーシングはなじまないという言葉を入れた。努力はしているが先が難しい。ぜひ頑張ってもらいたい。

委員：6ページ職員体制の見直しで嘱託が24に増えるということは管理が大変。休みや社会保険など人事管理が大変、どう図書館で管理するか、課の庶務が膨大になる。

館長：国分寺の場合は図書館は任用依頼を出すだけで職員課がやっているのだから、面接にも関われない。これから先は図書館も採用に関わらせていただきたいと思っている。反対にアウトソーシングをした場合、指定管理にしても評価チェックが週単位月単位で行う必要がある。業務として管理面は増える。100人単位でいる図書館だと大変だが24人なのでそれほどではない。

委員：1ページの1で、金額を削減する数字が出ている。本部の目的が分からないと慎重に進めていかないと。これ以上の削減は無理だとか判断してくれるのか。図書館は届いているのか。まだまだ絞れると考えているのか本音が知りたい。

委員：職員体制を見ると3分の1以下だが、ほかから配置転換で済むのか。

館長：定年退職と配置転換がある。図書館の場合資格を持っている職員はいるが基本は図書館専門職員と言う位置づけにはなっていないのではなく一般事務職。

委員：組合はどうなのか。

館長：これは案なので実際にやるとなると職員組合との話になる。

会長：次に本多駅前分館について。

館長：駅前分館は、平成18年度の19年2月に今の駅前分館が開館した。再開発ビルの中に建て替えたら入る。部会等で検討した。公益施設のあり方について市役所の最高決定機関である庁議で決定したので報告する。駅前分館は80㎡で、主に地域資料、行政資料を中心に所蔵し、インターネット端末がある。再開発ビルに入ると160㎡にすることが決定した。西街区ビルの5階に配置することになる。丸井からまっすぐにつながってビルが建つのが西街区、そして駅からまっすぐに本多図書館に来るロータリーがあり、いまタクシーが止まっているところが東街区でここは住宅棟にすることになっている。西街区は事業所9階建てで商業エリアで考えていたが、5階までが商業エリアになり、37階住宅に代わり、1番上の5階がLホール、市民課の北口サービスコーナー、駅前分館の3つ。1500㎡の中に160㎡の図書館が入り、市民の交流憩いの場としての民間活用のスペースと連携しながら駅前分館を開館していく。一応そこまで決まっている。どういう図書館にしていくかはこれから考えるが駅前の図書館として市内全館受付窓口として、貸出予約返却レファレンスの窓口、ICTを活用した情報収集や提供を行い、インターネットパソコン、データベースの充実も必要。現在も行っている地域行政資料のポイントとして観光案内なども行っていく図書館。平成30年建物完成予定と現時点では言われている。来年の春引っ越しをしないといけない。今ある駅前分館のところは再開発ビルが建つところなので、5年間駅前をどうするかが課題となっている。図書館だけでは決められな

いこと。公になった時点で、よく利用している方から5年間つぶさないでという問い合わせ、使用者懇談会でも意見があつて残していかなければならない。駅前を本多のそばに作っても仕方ない。駅前で駅に近いところで入れるスペースがみつかったとしても高い。公共施設などを当たりながら転居先を探している。場所と金の問題で苦労している。場合によっては休館せざるを得ないことになるかもしれない。

会長：いかがか。平成30年、あと5、6年、だいたい施設は借りるお金の問題はあるが少なくとも本を返すことができる、建て替える時など受け渡しはする。

委員：Lホールの片隅を使ってというのはできないか。

館長：Lホールは使用率が90%以上で難しい。主管課としてはせめてリクエストの本の受け渡しだけでもできるスペースがほしい。10㎡でもできないかと思う。

副会長：休館にするくらいなら西国分寺の近くのどこかに場所を借りてもらい、一時的にそういうものをおいたらどんなに便利かと思う。休館にするくらいなら西国を探してもらって。

館長：それは違うものだ。代わりに置いたものは5年たったらなくなる。西国分寺の近くに図書館がほしいという問題は5年たったらなくなるというものではない。結果的にそうなったとしても、それは新たに作ったものになる。

副会長：資料館として一時的に5年間引っ越してきてもらえたらいい。

館長：5年たったらなくなってしまっていていいということか。

副会長：その便利さわかったら違った考えが出てくるかと思った。資料館として5年間なら西国分寺なら場所があると思った。休館になるとその資料が使えなくなる。

館長：資料は使えるようにすることは考えるが。

副会長：利用者懇談会で「マンションができて、児童文学者や翻訳者が引っ越してきたが、国分寺には図書館がない」と言っている。これだけ言い続けていて教育委員会が何も考えないのは怠慢だと言って怒っている人がいる。それなら西国分寺で続けていただいて5年たったら引き揚げたとしてもないよりはいい。休館するよりはいい。

会長：いつからか。

館長：来年の春4月から5月にかけて引っ越しをする予定。

会長：半年ある。いいアイデアではあるが。

それでは次に次期運営協議会について。

館長：来期の委員が決まった。市民公募5名と識件が3名障害者団体代表小中学校代表しよう、市民公募は11名応募された。そのほか小中学校の代表と障害者団体の代表、委嘱の教育委員会は9月に確定した。第1回の会合はもう少し先になる。

各館報告：利用者懇談会は、子ども読書活動推進計画の第2期についてご意見をいただく会として9月から10月にかけて行った。光、並木が若干少なかった。いずみホールで開催された回については以前から出ている、近所に図書館がないという意見が多く出された。ご意見箱のご意見についてはお配りした内容だが、メールの意見がどんどん増えている。どういう状況なのかわからなくて検証ができないのでという返

事疎することもある。名前も利用者番号もないのでどういう方なのかわからないで返事をしなければならずメールのご意見には苦慮している。あとご意見を頂いている夏の暑さについてのご意見を頂いている。本多図書館では12月から小さい子のおはなし会はやっているが幼児向けのおはなし会が始まる。月1回でまだ名前が決まっていない。光は公民館まつり児童館まつりの前夜祭で19日におはなし会をスペシャルで行う。もとまち図書館は、でんでんだいことの共催で語りの会が10月22日に行う。またもとまち図書館主催の講演会。語りの連続講座をでんでんだいことの共催で連続5回行う。

会長：利用者懇談会、ご意見箱について質問などないか。では関さんだけが次期運営協議会に残る。

委員：市民公募で2年間お世話になった。答申を見て感心した。力のある方がやっていると思った。協議会の中で上からの答申ばかりでなく、現場からのものにぶつけてもらって議論した方がいいのではないかと思った。

委員：仕事を持っているので本を予約して借りたりするだけだった。国分寺の図書館は現場の努力に支えられているということを知った。勉強になった。利用者懇談会とか何らかの形で関わっていききたい。

会長：2年それ以上支えてきたと自負している。苦労もあったが新しい出発もあった。道筋をつけていく楽しさもあった。ご苦労様でした。これからも国分寺の図書館を支えていききたいと思っている。ありがとうございました。